

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))
Int. Cl7 B23D53/04, B23D55/06

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl7 B23D53/04, B23D55/00-55/06
B27B13/00, B27B15/00, B28D1/08

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1922-1996年
日本国公開実用新案公報 1971-2005年
日本国実用新案登録公報 1996-2005年
日本国登録実用新案公報 1994-2005年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X Y	JP 11-104915 A(株式会社アマダエンジニアリングセンター)1999.04.20, 【0016】 - 【0020】, 図1-4(ファミリーなし)	1-3 5
X	日本国実用新案登録出願60-139524号(日本国実用新案登録出願公開62-50015号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム(株式会社東芝)1987.02.27, 第3頁, 第1図(ファミリーなし)	1, 2
Y	JP 63-39718 A(株式会社アマダ)1988.02.20, 第7頁右下欄-第8頁左上欄, 第1図(ファミリーなし)	5

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

02.02.2005

国際調査報告の発送日

15.2.2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

所村 美和

3C

9617

電話番号 03-3581-1101 内線 3324

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	EP 967041 A1 (KEURO Besitz GmbH & Co. EDV-Dienstleistungs KG) 1999. 12. 29, [0040]-[0045], Fig. 9-10 & JP 2000-24834 A, 【0016】 - 【0017】 , 【0022】 , 図8-9 & DE 19828589 A & US 2002-73818 A1	18-21
P X	JP 2004-42210 A (株式会社アマダ) 2004. 02. 12, 全文, 全図 (ファミリーなし)	18-21
A	JP 45-31116 Y2 (天田勇) 1970. 11. 28, 全文, 全図 (ファミリーなし)	1-7
A	JP 57-127621 A (株式会社アマダ) 1982. 08. 07, 全文, 全図 (ファミリーなし)	8-17
A	JP 46-1489 Y2 (天田勇) 1971. 01. 19, 全文, 全図 (ファミリーなし)	18-21
A	JP 2001-179535 A (株式会社アマダエンジニアリングセンター) 2001. 07. 03, 全文, 全図 (ファミリーなし)	18-21

第II欄 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見（第1ページの2の続き）

法第8条第3項（PCT17条(2)(a)）の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。

1. ☐ 請求の範囲 _____ は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。つまり、
2. ☐ 請求の範囲 _____ は、有意義な国際調査をすることができる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、
3. ☐ 請求の範囲 _____ は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に従って記載されていない。

第III欄 発明の単一性が欠如しているときの意見（第1ページの3の続き）

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。

請求の範囲1-4は、前記ガイドポストからホイールの前側への突出量が小さく、帯鋸刃によりワークの切断を行うときの振動の発生を抑制し、前後方向の寸法を小さくでき小型化するために、駆動ホイールと従動ホイールとに掛回したエンドレス状の帯鋸刃の張力を一對のガイドポストによって受け、帯鋸刃の上下の鋸刃走行部がガイドポストの前側、後側に位置する構成としたものであり、請求の範囲5-7は、作業者が駆動ホイールと従動ホイールとに帯鋸刃を装着する場合に、帯鋸刃の歯部が帯鋸盤装置本体に干渉せずに容易に装着するために、上側走行部分以外の部分を駆動ホイールと従動ホイールとに装着する時に、帯鋸刃ガイド手段のスリットを介して挿入する構成としたものであり、請求の範囲8-17は、切削加工が行われる時に生じる鋸刃切削抵抗の衝撃力を小さくし、帯鋸刃の損傷の回避、振動及び騒音を低減するために、鋸刃駆動ユニットを鋸刃ハウジングに対して鋸刃回転方向にフローティング状態にし、駆動ホイールの軸を中心にして鋸刃回転方向と反対方向に反動力が生じ、この反動力を緩衝部の弾力性により吸収される構成としたものであり、請求の範囲18-21は、ワークと帯鋸刃を接触させず本体バイスの移動構造と帯鋸刃の逃がし構造などの専用構造を持たない構成とするために、ワークを帯鋸刃で切断加工した後、帯鋸刃を元の位置へ戻す際に、送材バイスでワークを後方へ移動させると共に例えば前側インサートに対して後側インサートを後方へ移動させることで、後側インサートが開き、帯鋸刃の捨り戻り力で帯鋸刃が傾き、両側の切断面から帯鋸刃の刃先を逃がすことができ、帯鋸刃が元の位置へ戻される構成としたものである。

1. ☒ 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求の範囲について作成した。
2. ☐ 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。
3. ☐ 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったため、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求の範囲のみについて作成した。
4. ☐ 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったため、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求の範囲について作成した。

追加調査手数料の異議の申立てに関する注意

- ☐ 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあった。
- ☒ 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがなかった。